

なぜ、理論を学ぶほど指導が難しくなるのか？

複雑系とシステム思考から考える

「指導がうまくいかない本当の理由」

はじめに

もし、あなたが今、

勉強しているのに、指導が楽にならない

理論を学ぶほど、現場で迷いが増えている

一生懸命やっているのに、選手が思ったように成長しない。

そんな違和感を抱えているなら、この PDF はきっと役に立ちます。

なぜなら、ここに書いてあるのはかつての僕自身が、まったく同じと

ころで悩んでいた話だからです。

自分が勉強すればするほど、良い指導ができるようになって と思っていた

正直に言うと、若い頃の僕はこう信じていました。

「指導者である自分が、もっと勉強すれば、知識を増やせば、それを選手に正しく落とし込めば選手は自然とうまくなるはずだ」と。

だから僕は、練習メニューの形、フォーメーションや配置、海外の最新理論、成功しているチームのやり方など、とにかく「目に見える正しそうなもの」を必死に集めていました。

スペインへ渡ったのもそのためでした。

少しは手応えがある。でも、先に進めない

確かに、まったくの無駄ではありませんでした。

一時的にうまくいく、ある局面では効果が出る、選手の動きが良くなる瞬間もある。

でも、必ずどこかで止まる。

そこから先に、進めない。

すると僕は、こう考え始めました。

「まだ足りない」

「もっと良い理論があるはずだ」

そして、また新しい理論を探しに行く。

うまくいかない → 学ぶ → 少し良くなる → 停滞する → また学ぶ

今思えば、完全に同じ場所をぐるぐる回っていました。

一番きつかったのは、失敗ではなかった

振り返ってみて、一番つらかったのは失敗そのものではありません。

一生懸命やっているのに、

なぜうまくいかないのか分からなかったこと。

何を直せばいいのか

どこを変えればいいのか

そもそも、問題はどこにあるのか

それが見えませんでした。

だから、また「知識」に頼るしかなく、新しい知識を追い求める。

当時の僕は、こう考えていた

今ならはっきり分かりますが、

当時の僕の前提は、完全にこれでした。

知識（原因） → 指導（入力） → 成長（結果）

自分が正しいことを学び、

それを伝えれば、選手はそれを再現し、

成長する。

これは一見、とても合理的です。

しかし、サッカーの現場では、必ずしもそうはなりません。

決定的に抜けていた視点

今振り返ると、当時の僕には、はっきりと抜けていたものがあります。

それは、

「選手が、実際にどんなプレーを創造しているのかを観察する視点」
でした。

僕は、

「何を教えたか」「どんなメニューをやったか」は見ていました。

でも、「選手がどう解釈したのか」「どう判断したのか」「なぜそのプレーを選んだのか」

という、選手の中で起きているプロセスを、ほとんど見ていなかったのです。

トップダウン・線形的な考え方の限界

これは、指導者の能力の問題ではありません。

むしろ、「勉強熱心」「真面目」「向上心がある」だからこそ、陥りやすい落とし穴です。

トップダウンで、「正しい答えを与える」「正しい形に近づける」。

このやり方は、単純な作業やマニュアルでは機能します。

でも、サッカーは違います。

サッカーでは、状況が毎回違うし、相手も、味方も動く、同じ答えが二度と出ません。

選手は、その場その場で自分なりに判断し、プレーを創造しています。
。

問題は、理論ではなかった

ここで、ようやく気づきました。

問題は、理論が足りなかったことではない。

問題は、理論の奥にある「仕組み」を見ていなかったことだ。

僕は、「うまくいった形」ばかりを見ていました。

でも、本当に見るべきだったのは、

なぜ、その形が機能したのか

なぜ、別の場面では機能しなかったのか。そのとき、選手同士の関係性はどうだったのか

という、目に見えない構造でした。

ここで初めて出会った視点— 複雑系とシステム思考

この違和感を整理してくれたのが、複雑系とシステム思考という考え方でした。

難しい言葉に聞こえるかもしれませんが、本質はとてもシンプルです。

チームは、部品の集合ではない

選手一人ひとりが影響し合っている

環境・ルール・関係性によって振る舞いが変わる

つまり、教えたかどうかではなく、それがどう「機能しているか」を見るという視点です。

見え方が変わると、指導が変わる

この視点を持つと、指導の見え方が大きく変わります。

「なぜできない？」ではなく

→「どんな条件なら、できそうか？」を見る

「教えたのに…」ではなく

→「どう解釈されたのか？」を観察する

「正解を与える」ではなく

→「判断が生まれる環境」を整える

これだけでも、多くの指導書や理論の読み方が変わります。

ここまで読んでくれたあなたへ

ここまで読んで、

「自分も同じだった」

「知識が足りないと思い込んでいた」

そう感じたなら、この PDF は、すでに役に立っています。

なぜなら、迷っていた理由が、言語化されたからです。

ここまで読んで、「何を教えるか」より「何を見ていなかったのか」

に気づけたなら、

それだけでも指導は変わり始めます。

ただし、これは入口にすぎません

正直に言います。

この視点を一度知っただけでは、現場は変わりません。

なぜなら、

観察の仕方

考え方の癖

判断の基準

これらは、指導現場で何度も行き来しながら少しずつ書き換えていく

必要があります。

だからこそ、「何を教えるか」ではなく「どう見ているか」を、
もう一度問い直す必要があります。

ジュニアサッカー大学 カズ